

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) グローバル英語学科では「人材の養成・教育研究上の目的」として、「グローバル英語学科は、実用的な英語運用能力、豊かな対人コミュニケーション能力、幅広い教養や専門的知識を持ち、グローバル社会に対応することができる人材の育成を目的としている。具体的な教育研究上の目的として、職業分野に応じた実務的な英語運用能力(ESP: English for Specific Purposes)を身に付けさせるため、「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教員養成」の4つの専門モデルを設置し、各専門分野で必要とされる知識・技能・英語力・汎用的能力を養成することを理念としている。」と設定している。以上の内容は、本学科の根幹であり、大学の理念や社会の要請に照らして、適切なものであると判断できる。</p> <p>(2) 「行学一体」「報恩感謝」という大学の理念は、単に知的な理解だけに満足しないで、身につけた学問を実践して人間の完成をめざすとともに社会に貢献し、自己を見つめ、周囲の人々や環境に感謝を忘れないことである。本学科では、このような精神をもってグローバル社会に対応することを目指すという観点から両者に関連性を持たせている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト【ウェブ】				
「建学の精神・教育理念」ウェブサイト【ウェブ】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学科の人材育成・教育研究上の目的は、愛知学院大学学則、第1章総則、第1条3により「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。</p> <p>(2) 学科の理念・目的、人材の養成・教育研究上の目的を、ホームページと履修要項に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、社会に公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「愛知学院大学人材の育成・教育研究上の目的」ウェブサイト【ウェブ】				
「愛知学院大学学則」ウェブサイト【ウェブ】				
2019年度文学部履修要項(p.31)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に行っている場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

## 2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

## 1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学部内の自己点検・自己評価委員会に参加し、学部としての定期的な点検・評価の取組みを実施している。学部で検討された取り組みを受けて、学科内で実施する体制を取っている。文学部としては、学部単位での、自己点検・自己評価結果に基づき、授業公開やFD研修会を実施して改善・向上に取り組んでいる。学科としては、学科独自のFD活動を行っており、個人としては、授業アンケート等を用いて、自己点検、自己評価を年度ごとに行い改善・向上に努めている。学生代表と教員の懇談会を行い、定期的に学科全体の点検・評価の参考にしている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文学部自己点検・自己評価委員会議事録				
学生代表と教員の懇親会に関する資料				

## 2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

## 3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識・技能・態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)修得した科目における学修を通じて、国際社会の一員として社会の発展に貢献し得る国際政治、経済に関する知識、異文化理解力と英語力、協調的な態度を身につけ、専門ゼミでの課題や卒業論文・卒業研究への取り組みにおいて、国際社会における問題や課題を発見し、これまでに獲得した知識・技能・態度等を活用し、主体的に情報を収集、分析、整理することによって、課題解決のための創造的な提案を行う能力を備えていると判断した場合に学位を授与する旨を、ディプロマ・ポリシーに明示し、大学ウェブサイト、履修要項にて公表している。</p>				
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「ディプロマ・ポリシー」ウェブサイト【ウェブ】				
履修要項(p.34 ディプロマ・ポリシー)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)グローバル英語学科のカリキュラム・ポリシーは、次のような内容を踏まえ設定している。実用的な英語運用能力、国際的な教養や専門的知識、国際社会に貢献し得るホスピタリティ・マインド(もてなしの心)を有した人材の養成を目標とし、英語技能科目群、教養科目群、異文化理解・海外事情科目群、専門科目群(観光・航空科目群、通訳・翻訳科目群、国際ビジネス科目群、英語教育科目群)を入門から基礎、応用科目へと学年ごとに段階的に学修し、卒業研究・論文作成により、学修の成果を結実させる。授業形態は、学生が他者と協働し、主体的・能動的に学習することを促す教育方法を実施することを重視し、アクティブラーニング、学外の体験学修、ピア・サポートを積極的に取り入れ、実践している。また、大学ホームページ及び履修要項において、カリキュラム・ポリシーを公表している。</p> <p>(2)グローバル社会に貢献し得る人材を養成するために、教育課程を編成・実施し、学修の結果として、十分な能力、資質を有する者に学位を授与すると定めている。したがって、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーには適切な連関性がある。</p>				
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「カリキュラム・ポリシー」ウェブサイト【ウェブ】				
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー(文学部履修要項抜粋)(pp.184-187)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 英語技能科目群、教養科目群、異文化理解・海外事情科目群、専門科目群(観光・航空科目群、通訳・翻訳科目群、国際ビジネス科目群、英語教育科目群)を入門から基礎、応用科目へと学年ごとに段階的に学修し、卒業研究・論文作成により、学修の成果を結実させるという教育課程の編成・実施方針に基づき、学年毎教育課程を編成し、授業科目を設定できている。</p> <p>(2) 1、2年次は教養教育科目を必修、3、4年次は選択科目としてカリキュラムを編成している。また、学年ごとに段階的にTOEICの得点を向上させることを目標に、週6コマの英語技能科目を必修として配し、習熟度別のクラス編成で個々の能力に応じた指導を行って、実社会で即戦力となり得る実用的な英語運用能力を養成している。さらに、1年次の異文化理解入門、2年次の海外語学研修、3年次の海外事情科目を必修とし、異文化理解力の養成と英語力の向上を図っている。専門科目については、分野ごとに履修モデルを設定し、学生の興味や将来の目標に応じて2年次から4年次にかけて入門、基礎、応用の順に学年ごとに段階的、かつ体系的に各分野の知識を深めながら、その分野において必要とされる英語力を高めることができるように選択科目として授業科目を開設している。</p> <p>(3) 上記(2)の科目内容を実施する際には、フィールドワークや調査、グループワークや討論、発表を中心とした学生主体の演習形式の授業展開によって、課題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション能力などの汎用的能力を向上させ、4年次において、学びの集大成を卒業論文にまとめることを必修としている。シラバスの相互チェックにより個々の授業科目の内容及び方法と、カリキュラム・ポリシーに整合性をもたせるよう確認している。</p> <p>(4) 1、2年次は教養教育科目を必修とすること、専門科目の入門科目を必修としている。3、4年次は専門科目を中心としてカリキュラムを編成している。また、1年次には、教養セミナー、基礎ゼミを設定し、初年次教育、高大接続へ配慮している。</p> <p>(5) 全般としては、社会人として求められる豊かな教養と、幅広い視野に立って物事を総合的に捉える能力を養うことを目標としている。また、社会で即戦力となり得る人材を育成するために、専門科目(「観光実務論」「国際関係論」「通訳法」「児童英語教育論」などのキャリア関連科目)において当該分野で必要となる英語の知識だけではなく、その分野の専門的かつ実務的な知識を教授し、実践的な授業を展開している。</p> <p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p> <p style="text-align: center;">根拠資料名</p> <p>カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー(文学部履修要項抜粋)(pp.184-187)</p> <p>シラバスチェック報告書</p>				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	B
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 各年度ごとに履修単位制限を44単位に設定し、単位の実質化を図っている。しかしながら、本学科の場合には、英語技能科目が1単位であることから、時間割のコマ数を多く履修する必要がある。その結果、資格課程科目については、履修単位制限を超過して取得する必要がある、一部学生への負担が大きい。また、シラバスに授業時間外に必要な学習内容・学習時間を記載している。</p> <p>(2) シラバスの内容については、シラバスの入力後に相互チェックを行い、適切性を保持している。授業内容とシラバスとの整合性については、授業アンケートで設問を設けて確認しており、おおむね確保できている。</p> <p>(3) 多くの授業で教員手づくりのパワーポイントや音声・動画などの視聴覚教材を使った分かりやすい効果的な授業を行うための取り組みが実施されている。学生の主体的参加を促すべく、定期的に小テストを実施したり、課題、レポートを課して、予習、復習を徹底しているほか、できるだけ質問を投げかけたり、プレゼンテーションをさせるなど、双方向の授業を意識的に実践し、学生が主体的に授業に参加できるような努力をしている。通訳翻訳系の科目や観光系の科目の中には、LA (Learning Assistant: ビア・サポート)を導入した学生中心のグループ学習、PBL演習(課題解決型演習)などを取り入れた学生の自主的な活動を促す実習中心のアクティブな授業も行われている。</p> <p>(4) 英語技能科目の多くは20~30名前後でクラス編成し、学生個々の演習、授業への参加の機会を増やすよう努めている。講義形式の授業は選択科目であることから受講者数は一定ではないが、1講義あたり100名を超えることは殆どなく、適切な人数が保たれている。履修指導については、1年次には履修相談会を実施している他、教養部のアドバイザー制度に加え、学科でも基礎ゼミの担当教員が相談に応じており、2年次からは春学期の履修登録期間前にオリエンテーションを実施すると共に、主に2年次は語学研修の担当教員、3、4年次は専門ゼミの担当教員が相談に応じたり、履修指導を随時行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
履修要項(p.39 履修登録)				
シラバス【ウェブ】				
令和元年度秋学期 学生による授業アンケート集計表				

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3) 卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4) <修士課程・博士課程> 学位論文審査基準を明示していますか。	
		(5) 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6) 適切に学位授与を行っていますか。	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 大学の基準に則って、成績を6段階(AA:90点以上、A:80点～89点、B:70点～79点、C:60点～69点、D:30点～59点、E:29点以下)で評価するというGPAによる評価システムに従い、C以上の評価に対して、講義科目は2単位を、英語技能科目を中心とする演習科目は1単位を認定している。既修得単位の認定は、履修要項に「単位認定」として示した上で適切に行っている。</p> <p>(2) 評価方法は当該科目の担当教員の裁量に任されており、定期試験に最も大きな比重を置く教員が多いが、小テスト、授業内活動への参加度、プレゼンテーションへの取り組みや発表内容、提出物など、複数の要素を評価対象としている。各項目の評価割合などの評価方法の詳細は講義概要、ウェブシラバスに明示されている。</p> <p>(3) 卒業要件については、履修要項に明示し、履修ガイダンスで学生に説明している。卒業論文の審査基準については、評価基準表を導入し、学生にその基準(「形式」「テーマの設定と提示」「論拠と議論」「文章力」「盗用と剽窃」「データ件数と収集」など専門分野に応じたもの)を示している。</p> <p>(4)</p> <p>(5) 卒業論文の審査においては、2名の教員(主査と副査)が評価基準表に従って論文の審査を行っている。学位審査及び修了認定は、教務課から提示された修得単位数と成績の一覧をチェックした上で、学科会議で審議した後、学部教授会での審議を経て、最終判定を行っている。</p> <p>(6) 上記、(1)～(3)、(5)の取組みを経て、各段階において、複数のチェック、審議等を経て、適切に学位授与を行っている。</p>			
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
シラバス【ウェブ】			
履修要項(pp.19-20 成績)			
履修要項(p.23 進級・卒業)			
Sotsuron Evaluation Criteria (学科内資料)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 英語学習の成果測定の指標としてTOEICを活用し、1年次は400点、2年次は450点、3年次には460点、4年次には470点を最低ラインの目標として設定している。履修要項にカリキュラムツリーを掲載し、科目ごとに履修することによって得ることが期待される学習成果を可視化している。学習振り返りを学習カルテに記入することにより、学生自身が学習成果を自己評価できるようにすることを検討している。2019年度、アセスメント・プランを設定し、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を測定するための指標を精査した。</p> <p>(2) 英語力の測定のために1、2年次はTOEICを年2回実施し学習の進捗を把握している。一部の科目においては、ルーブリックによる評価や、学習の成果物によるポートフォリオ評価を実施している。また、学習の進捗状況を学習カルテにまとめながら、学習成果を把握及び評価するように検討している。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学習カルテの検討資料(組織内資料)				
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー(文学部履修要項抜粋)(pp.184-187)				
学科会議議事録(2020.1.31)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学生による授業アンケートの結果に基づいて、問題点の考察と改善案策定を各教員が行っている。具体的には、2019年度より、文学部自己点検・自己評価委員会にて設定した学習成果の測定方法(ルーブリックや採点基準表による卒論の評価、ポートフォリオ評価、TOEIC等)に基づき、教育課程及びその内容・方法が適切であるか点検・評価している。</p> <p>(2) 毎週学科会議において教育上の問題点や課題について議論しており、翌年度の開講科目設定のありかを含め、教育課程の編成・実施方針の適切性について検討、改善を行っている。また、学部FD活動の取組みと連動しながら、授業改善に取り組んでいる。教育課程の改善事例として、2020年度からの「産官学連携講座Ⅲ・Ⅳ」「観光法規a,b」開講について検討を行った。さらに2021年度から新しいカリキュラムを編成すべく準備を重ね、具体的に学科として施策化した。特徴は、1年次からの体系的なキャリア教育とそれに見合う科目を設置すること、教員養成モデル、観光モデルの科目を再検討・充実させることである。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部自己点検・自己評価委員会議事録				
学科会議議事録				
グローバル英語学科カリキュラム改訂の要旨(2020.2.27内部資料)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
④(1)	英語科教育法、教育原論など教員免許取得のための単位は、履修制限単位を超えて取得せねばならないため、学生への負担が大きくなっている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
④(1)	英語教員養成は、学科の人材育成、教育研究の目的と合致するため、英語科教育法は専門科目として、卒業要件単位として認めることを検討し、カリキュラムを再編した。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
20190710学科会議議事録	
グローバル英語学科カリキュラム改訂の要旨(2020.2.27内部資料)	

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて、(2)に記載する学生の受け入れ方針を設定し、入学試験要項及びウェブサイト上に公開している。</p> <p>(2) 学科が求める学生像等の内容を踏まえた学生の受け入れ方針を以下のように設定している。また、入学者選抜のための判定方法を策定している。①グローバル社会が求める英語運用能力を備え、円滑で豊かなコミュニケーション能力を身につけようという意欲や向上心を持っている人。入学時には実用英語検定準2級取得あるいは同等の英語力を有していることが望ましい。②グローバル社会における多文化や異文化に関する知識、ホスピタリティー力(思いやり力)、情報収集力、論理的思考力、問題解決力などの「汎用的能力」を身につけたい人。③グローバル社会における倫理観、自己管理能力、グローバル市民としての社会的責任等を主体的に協働して学ぶ意欲と熱意を持っている人。</p> <p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「アドミッション・ポリシー」ウェブサイト【ウェブ】				
入学試験要項				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学科の学生受け入れ方針に基づき、大学が定める学生募集方法及び選抜制度に則って、入試形態別の募集定員を明らかにし、入学者選抜を行っている。</p> <p>(2) 学部での慎重な判断の上に、全学の代表で構成される入試委員会で合格者数、得点等を明確にし、客観性と透明性を確保している。</p> <p>(3) 高等学校からの模擬授業や学科紹介の依頼に積極的に応じ、学生募集を公正に行っている。入学者選抜は各入学試験の方法に則って実施、採点、評価をしている。</p> <p>(4) 入学者選抜においては、必要に応じて、入学を希望する者への合理的な配慮の必要性を検討し、個別対応を行っている。</p> <p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
愛知学院大学 入試情報サイト【ウェブ】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 2019年5月のデータでは、収容定員448名に対して学生数は447名で、比率は0.99%である。入学定員110名に対する入学者数は109名で、比率は0.99%である。編入学定員は2年次1名、3年次1名で、年度によってばらつきがあるが、編入学生数は定員内に収まっている。入学者数、在籍学生数が入学定員、収容定員と乖離せぬように、過年度の入学試験結果と入学者数を踏まえ、入試委員会を中心に検討を重ねている。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
収容定員及び在籍学生数【ウェブ】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 学生募集および入学者選抜については、入試委員会と入試検討小委員会で適正に行われるように毎年度審議と検証が重ねられている。 (2) 学部の入試検討小委員会委員と学科の入試委員は、各委員会における検討内容を学部教授会と学科会議において周知し、必要に応じて学科で改善・向上に向けた取り組みを審議し、決定事項や意見を両委員会に上げるように依頼している。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準5」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月～2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	◇新規項目 各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学部としての教員組織の編制に関する編制方針が決定した。学科としての教員組織に関する編制方針も、グローバル英語学科のカリキュラムの特徴や資格取得の目標等を考慮して適切に策定した。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文学部グローバル英語学科 教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	B
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 本学科の日本人教員は7名(うち客員教授1名)、外国人教員3名である。(3)に述べるように、教員の授業負担が重く、教員1人当たりの各種委員会等の役割分担の負担も大きいことから、専任教員数を増員することが望ましい。</p> <p>(2) 文学部人事審査委員会を中心に、各学科からも状況説明を行いながら、教員人事(募集・採用・昇任)について計画的に実施している。</p>				

**基準6. 教員・教員組織**組織名 **文学部グローバル英語学科**

(3) 本学科の教員構成は、日本人教員7名、外国人教員3名で、内訳は教授4名、准教授4名、外国人教師1名、客員教授1名で、年齢別構成は70代1名、60代3名、50代5名、40代1名で若い教員が少ない。男女比は男性8名、女性2名で女性が少ない。国際ビジネス、観光・航空、通訳・翻訳を専門とする教員が各1名、英語学、英語教育(教員養成、語学)が3名で、外国人教員は3名で英語教育(異文化理解、語学)の養成を行う。客員教授を除く専任教員1人につき半期あたりの担当コマ数は最も少ない者は7コマ、最も多い者は12コマとなっている。教員1人あたりの負担が重くなっている状況は否めない。

(4) 本学科の教養教育は主として教養部が担当するが、英語については、本学科が必修の専門語学科目で教養教育としての語学学習を担い、両者が連携して適切に運営している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

**根拠資料名**

各学科における教員組織の編制の適切性について(組織内資料)

教員組織・教員数【ウェブ】

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 採用人事または後任人事については学長の了解のもとで事前に学部の人事審査委員会での審議を経た後に公募を開始する。学科会議において「愛知学院大学文学部教授会規程」に基づく「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」によって応募者の中から候補者を選出し、人事審査委員会での審査の後に、学部教授会で教授は二段審査、准教授や講師は一段審査で厳正に審議される。その後更に学部長会議、代表教授会で審議された後に承認を得る。採用にかかわる公募はデータベース(JREC-IN)に登録して公開して募集している。</p> <p>(2) 昇格については「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」に従って行われる。採用・昇格ともに人事審査委員会、文学部教授会、学部長会議、代表教授会で段階的に審議を重ねた後に承認される。以上のように基準や規定は整備されており、これに則って厳正かつ公正に人事を実施している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学生による授業アンケートの結果を基に、より良い授業実施に努めることを通じて、授業の質の向上が図られている。さらに学科を越えて授業を参観してピアレビューをし合うことによって自分の専門分野以外の視点を得て、授業の改善に役立っている。また、年に1回全学ベースのFD委員会による「FD研究会」に参加しており、学部横断的なFDの課題を共有し、改善に努めている。2019年度も、研究活動や社会貢献のFDとして、英語英米文化学科と合同で「国際言語文化フォーラム」を開催した。</p> <p>(2) 現状では、個人による自己点検、自己評価と改善努力に負うところが大きく、学科としての取組みは行っていない。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
FD活動報告書(令和元年度FD活動報告書抜粋)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教員の専門分野については、専門ゼミの希望者数や、各授業の受講者数などから、学生が学びたいと希望している分野を考慮したり、教職課程の維持に必要な教員を適切に配置するように学科会議において定期的に検討を重ねている。</p> <p>(2) 学科会議において学科の理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、専任教員、非常勤講師の採用に反映させるように努めている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
各学科における教員組織の編制の適切性について(組織内資料)				

## 2. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

## 3. 課題・問題点

<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②(1) (3)	専任教員の担当コマ数が多く、授業負担への適切な配慮ができていない。また、学生定員に対する教員数は、他学科に比べて1名は少ない現状がある。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②(1)(3)	グローバル英語学科の教員組織の編制に関する方針を2019年度に作成したところであり、今後は、この方針に従って検討をしていく予定である。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	B

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	B
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 分野(国際ビジネス、通訳・翻訳、教員養成)によって、取組みに差が見られる点が課題ではある。しかし、日進市観光まちづくりへの企画提案、JAL「記憶に残る旅」の企画提案など、地元の自治体や企業との連携事業に取り組んでいる。また、地元自治体が主催する地域交流、国際交流事業にも協力しており、観光、国際交流分野では積極的に取り組みを進めているところである。</p> <p>(2) 上記のような現在行っている社会連携・社会貢献活動について、担当者から事業の報告を受け、学科内で社会貢献のFDに取り組んでいる。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
FD活動報告書(令和元年度FD活動報告書抜粋)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学科内で社会貢献のFD活動を行い、社会連携・社会貢献の適切性について、毎年、点検・評価を行っている。</p> <p>(2) 観光関連における社会連携・社会貢献は学内で推進されている地域連携センターおよび地方自治体(日進観光まちづくり協会)で実施される「PDCAサイクル」に基づくフィードバックによって毎年、改善・点検がされている。しかしながら、現在行っている社会連携・社会貢献についての改善・向上は各分野の担当教員に負うところが大きく、学科としての取組みには至っていないところがある。また、今後、学科として社会連携・社会貢献をどのように進めるかについても社会貢献のFD活動等で模索しているところである。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
FD活動報告書(令和元年度FD活動報告書抜粋)				

## 2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし  
たうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

## 3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、  
記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
②(1)	現在は観光分野での地域連携、社会貢献が中心となっているが、他の分野での取組みは今後検討の余地がある。

## 4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を  
記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②(1)	英語教員養成分野で、地域の小中学校への英語教育ティーチング・アシスタント等の協力をを行うことを検討したり、通訳・翻訳分野では多言語翻訳による地域観光ガイド等の作成により、社会貢献を広げることができないか模索を始めているところである。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
グローバル英語学科の教員養成(内部資料)
日進市における令和元年度大学との協働事業(日進市資料)

## 5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
B